

ICOM

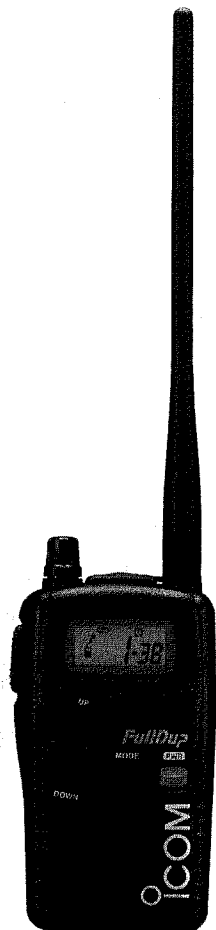
取扱説明書

特定小電力トランシーバー

IC-4088D

この取扱説明書は、IC-4088Dだけに搭載の機能について説明していますので、お読みになったあと大切に保管してください。

Icom Inc.



もくじ

もくじ	1
1. 交信モードについて	2
■ 各交信モードの概要	2
■ 設定のしかた	5
◇ 単信(シンプレックス)モードの設定	6
◇ 複信(フルデュプレックス)モードの設定	7
◇ 半複信(セミデュプレックス)単独レピータ使用モードの設定	9
◇ 半複信(セミデュプレックス)連結レピータ使用モードの設定	11
◇ 複信(フルデュプレックス)連結レピータ使用モードの設定	13
◇ 単独レピータモードの設定	16
◇ 連結レピータモードの設定	18
■ 複信モードでの交信のしかた	21
2. セットモード	24
■ セットモードについて	24
■ グループ機能を設定する	25
■ 1対N(複数)通信機能を設定する	26
■ スケルチレベルを設定する	27
3. イニシャルセットモード	28
◇ 動作状態の設定	28
◇ 連結レピータ機能の設定	29
◇ ハングアップタイムの設定	29
4. 別売品とその使い方	30

交信モードについて

1

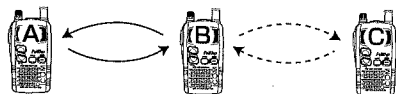
■ 各交信モードの概要

IC-4088Dで利用できる7つの交信モードについて説明します。

子機としてご使用の場合

◇ 単信(シンプレックス)モード(※P6)

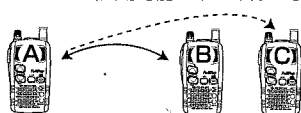
通話エリア内で、チャンネルが合致する相手と「話す」「聞く」が交互にできるモードです。(使用可能チャンネル: Ch1~Ch20)



◇ 複信(フルデュプレックス)モード(※P7)

電話のように、通信相手と「話す」「聞く」が同時にできるモードです。

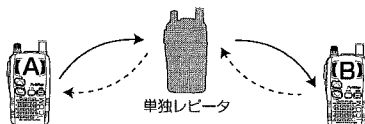
1対N(複数)通信時は、通話エリア内の第三者(C)も(A)で話した内容が聞こえます。(使用可能チャンネル: Ch31~Ch57)



◇ 半複信(セミデュプレックス)単独レピータ使用モード(※P9)

通信相手とのあいだにビルなどの障害物がある場合や、ビルの異なるフロア間などで、レピータを使用して通話するモードです。

単信(シンプレックス)モードのように、通信相手と「話す」「聞く」が交互にできます。(使用可能チャンネル: RPT1~RPT27)



2

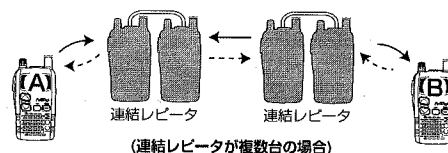
1 交信モードについて

◇ 半複信(セミデュプレックス)連結レピータ使用モード(※P11)

通信相手とのあいだにビルなどの障害物がある場合や、ビルの異なるフロア間などで、レピータを使用して通話するモードです。連結レピータを複数台使用すると、単独レピータよりも広範囲をカバーできます。

単信(シンプレックス)モードのように、通信相手と「話す」「聞く」が交互にできます。

連結レピータの数は、ご使用の環境にあわせて、増設が可能です。(使用可能チャンネル: RPT1~RPT27)



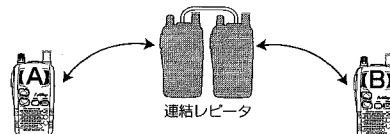
◇ 複信(フルデュプレックス)連結レピータ使用モード(※P13)

通信相手とのあいだにビルなどの障害物がある場合や、ビルの異なるフロア間などで、レピータを使用して複信(デュプレックス)で通話するモードです。

レピータを使用すると、広範囲をカバーできます。

通信相手と「話す」「聞く」が同時にできます。

連結レピータの数は、ご使用の環境にあわせて、増設が可能です。(使用可能チャンネル: RPT31~RPT57)



3

レピータとしてご使用の場合

◇ 単独レピータモード (※P16)

本機を「半複信(セミデュプレックス)単独レピータ使用モード」のレピータとして使用するモードです。

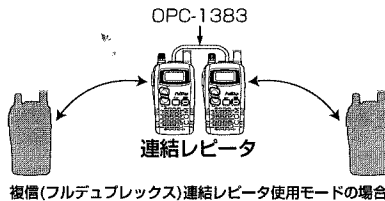
(使用可能チャンネル：RPT1～RPT27)



◇ 連結レピータモード (※P18)

本機を別売品の接続ケーブルOPC-1383で接続して(※P30)、「複信(フルデュプレックス)連結レピータ使用モード」または「半複信(セミデュプレックス)連結レピータ使用モード」のレピータとして使用するモードです。

(使用可能チャンネル：RPT1～RPT27、RPT31～RPT57)



複信(フルデュプレックス)連結レピータ使用モードの場合

■ 設定のしかた

イニシャルセットモードの「Sc」(動作状態の設定)項目と「Fr」(連結レピータ機能の設定)項目、通話チャンネルの設定内容は、モードにより異なります。

以下の表と6ページ以降の説明を参考に、設定してください。

◎ 子機として使用する場合

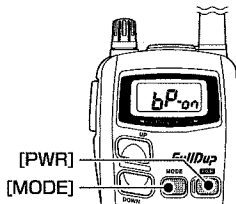
モ　　ド			イニシャル セットモード		チャンネル
			Sc	Fr	
子機同士での通信	単信(シンプレックス) (※P6)		88	-	1~20
			AL		
	複信(フルデュプレックス) (※P7)		AL	oF	31~57
			Fd		
レピータを使った通信	半複信 (セミデュプレックス)	単独レピータ 使用 (※P9)	88	oF	RPT1~RPT27
			AL		
	連結レピータ 使用 (※P11)	AL	A	RPT1~RPT27	
			b		
	複信(フルデュプレックス) 連結レピータ使用 (※P13)	AL	A	RPT31~RPT57	
		Fd	b		

◎ レピータとして使用する場合

モ ー ド	イニシャル セットモード		チャンネル
	Sc	Fr	
単独レピータ (※P16)	rP	oF	RPT1～RPT27
連結レピータ (※P18)	rP	A	RPT1～RPT27、
		b	RPT31～RPT57

◇ 単信(シンプレックス)モードの設定

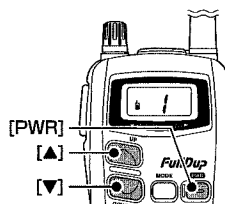
- ① 電源を切ります。
- ② [MODE]スイッチを押しながら [PWR]スイッチを押します。
● 電源が入ります。(イニシャルセットモードを表示します。)
- ③ [MODE]スイッチを短く数回押して、Sc-88(動作状態の設定)項目を選択します。
- ④ [▲]/[▼]スイッチを押して、動作状態の設定内容を「Sc-88」または「Sc-AL」に設定します。
● Sc-88：「単信モード」または「半複信単独レピータ使用モード」だけ使用可能
● Sc-AL：子機として動作する場合の全モード使用可能



Sc-88
または

Sc-AL

- ⑤ [PWR]スイッチを短く押すと、通話チャンネル表示に戻ります。
- ⑥ [▲]/[▼]スイッチを短く押して、通信相手と同じ通話チャンネルを1～20のあいだで設定します。

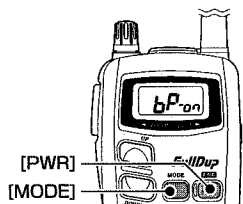


※交信のしかたについては、IC-4088/D取扱説明書14～19ページを参照してください。

◇ 複信(フルデュプレックス)モードの設定

電話のような通話ができるモード(フルデュプレックス)です。グループ全員を一斉に呼び出し、最初に[PTT]スイッチが押された無線機と通話します。このモードでは、IC-4088D同士だけの通信となります。

- ① 電源を切ります。
- ② [MODE]スイッチを押しながら [PWR]スイッチを押します。
● 電源が入ります。(イニシャルセットモードを表示します。)
- ③ [MODE]スイッチを短く数回押して、Sc-88(動作状態の設定)項目を選択します。
- ④ [▲]/[▼]スイッチを押して、動作状態の設定内容を「Sc-AL」または「Sc-Fd」に設定します。
● Sc-AL：子機として動作する場合の全モード使用可能
● Sc-Fd：複信(フルデュプレックス)モードだけ使用可能



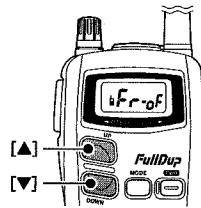
Sc-AL
または

Sc-Fd

- ⑤ [MODE]スイッチを短く押して、Fr-oF(連結レピータ機能の設定)項目を選択します。

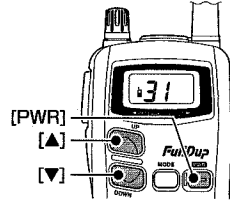
- ⑥ [▲]/[▼]スイッチを押して、連結レピータ機能の設定内容を「Fr-oF」に設定します。

●Fr-oF：連結レピータを使用しない



- ⑦ [PWR]スイッチを短く押すと、通話チャンネル表示に戻ります。

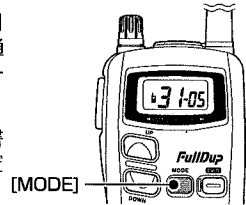
- ⑧ [▲]/[▼]スイッチを短く押して、相手と同じ通話チャンネルを31～57のあいだで設定します。



- ⑨ グループ機能を設定します。(※P25)

※通信する無線機と同じグループ番号を設定します。

- ⑩ グループ機能設定後、[MODE]スイッチを短く3回押すと、通話チャンネルと設定したグループ番号の表示になります。



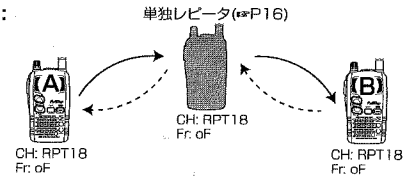
※交信のしかたについては、本書21～23ページを参照してください。

■第三者が会話を聞くには

1対N(複数)通信機能(※P26)を設定すると、通話エリア内の第三者も、通話内容を聞くことができます。

◇半復信(セミデュプレックス)単独レピータ使用モードの設定
通信相手とのあいだにビルなどの障害物がある場合などに、レピータを使用して通信相手と交互に通話するモードです。

設定例：



- ① 電源を切ります。
② [MODE]スイッチを押しながら[PWR]スイッチを押します。

●電源が入ります。(イニシャルセットモードを表示します。)

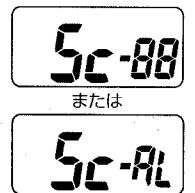
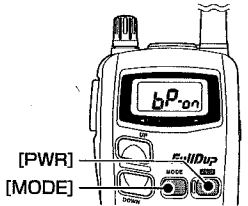
- ③ [MODE]スイッチを短く数回押して、Sc-88(動作状態の設定)項目を選択します。

- ④ [▲]/[▼]スイッチを押して、動作状態の設定内容を「Sc-88」または「Sc-AL」に設定します。

●Sc-88：「単信モード」または「半復信単独レピータ使用モード」だけ使用可能

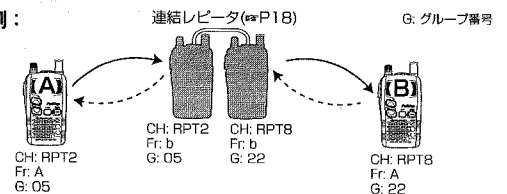
●Sc-AL：子機として動作する場合の全モード使用可能

- ⑤ [MODE]スイッチを短く押して、Fr-oF(連結レピータ機能の設定)項目を選択します。



◇半復信(セミデュプレックス)連結レピータ使用モードの設定
通信相手とのあいだにビルなどの障害物がある場合などに、レピータを使用して、通信相手と交互に通話するモードです。

設定例：



【連結レピータ設置に関するご注意】

通話が途切れたり、通話音がひずんだりする原因になりますので、連結レピータを設置する際は、子機や隣接しているレピータと、ある程度距離を離して設置してください。

- ① 電源を切ります。
② [MODE]スイッチを押しながら[PWR]スイッチを押します。

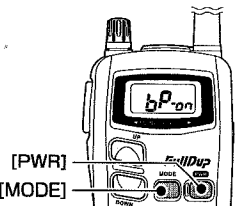
●電源が入ります。(イニシャルセットモードを表示します。)

- ③ [MODE]スイッチを短く数回押して、Sc-88(動作状態の設定)項目を選択します。

- ④ [▲]/[▼]スイッチを押して、動作状態の設定内容を「Sc-AL」に設定します。

●Sc-AL：子機として動作する場合の全モード使用可能

- ⑤ [MODE]スイッチを短く押して、Fr-oF(連結レピータ機能の設定)項目を選択します。



- ⑥ [▲]/[▼]スイッチを押して、レピータ機能の設定内容を「Fr-A」または「Fr-b」に設定します。

- Fr-A：連結レピータ周波数帯 Aを使用
- Fr-b：連結レピータ周波数帯 bを使用

※隣接しているレピータと逆の周波数帯を選択してください。

- ⑦ [PWR]スイッチを短く押すと、通話チャンネル表示に戻ります。

- ⑥で「Fr-A」選択時は、「A」
- 「Fr-b」選択時は、「b」が表示されます。

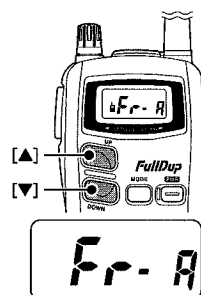
- ⑧ [▲]/[▼]スイッチを短く押して、隣接しているレピータと同じ通話チャンネルをRPT1～RPT27のあいだで設定します。

- ⑨ グループ機能を設定します。(※P25)

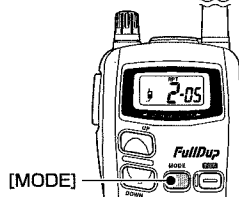
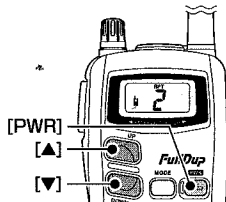
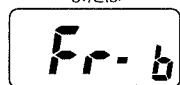
※隣接しているレピータと同じグループ番号を設定します。

- ⑩ グループ機能設定後、[MODE]スイッチを短く3回押すと、通話チャンネルと設定したグループ番号の表示になります。

※交信のしかたについては、IC-4088/D取扱説明書14～19ページを参照してください。

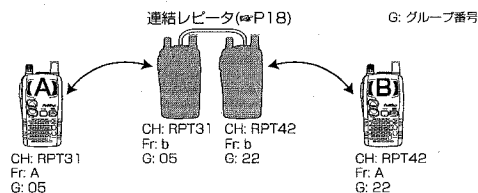


または



12

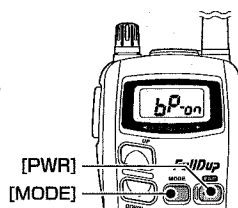
- ◇ 複信(フルデュプレックス)連結レピータ使用モードの設定
通信相手とのあいだにビルなどの障害物がある場合などに、レピータを使用して、電話のように通話するモードです。
このモードでは、IC-4088D同士だけの通信となります。
設定例：



【連結レピータ設置に関するご注意】

通話が途切れたり、通話音がひずんだりする原因になりますので、連結レピータを設置する際は、子機や隣接しているレピータと、ある程度距離を離して設置してください。

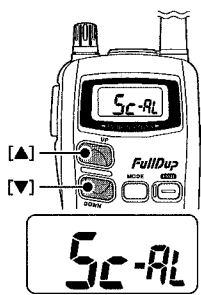
- ① 電源を切ります。
- ② [MODE]スイッチを押しながら [PWR]スイッチを押します。
●電源が入ります。(イニシャルセットモードを表示します。)
- ③ [MODE]スイッチを短く数回押して、Sc-88(動作状態の設定)項目を選択します。



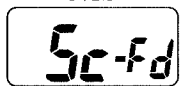
13

- ④ [▲]/[▼]スイッチを押して、動作状態の設定内容を「Sc-AL」または「Sc-Fd」に設定します。

- Sc-AL：子機として動作する場合の全モード使用可能
- Sc-Fd：複信(フルデュプレックス)モードだけ使用可能



または



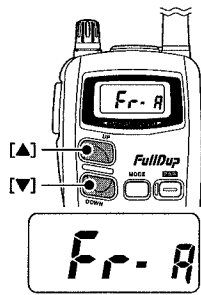
- ⑤ [MODE]スイッチを短く押して、Fr-oF(連結レピータ機能の設定)項目を選択します。

- ⑥ [▲]/[▼]スイッチを押して、レピータ機能の設定内容を「Fr-A」または「Fr-b」に設定します。

- Fr-A：連結レピータ周波数帯 Aを使用
- Fr-b：連結レピータ周波数帯 bを使用

※隣接しているレピータと逆の周波数帯を選択してください。

(レピータがAならb、bならA)



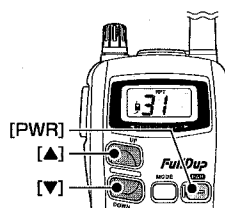
または



- ⑦ [PWR]スイッチを短く押すと、通話チャンネル表示に戻り、通話チャンネルの上に「RPT」が表示されます。

- ⑥で「Fr-A」選択時は、「A」
- 「Fr-b」選択時は、「b」が表示されます。

- ⑧ [▲]/[▼]スイッチを短く押して、隣接しているレピータと同じ通話チャンネルをRPT31～RPT57のあいだで設定します。

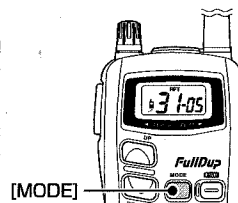


- ⑨ グループ機能を設定します。(※P25)

※隣接しているレピータと同じグループ番号を設定します。

- ⑩ グループ機能設定後、[MODE]スイッチを短く3回押すと、通話チャンネルと設定したグループ番号の表示になります。

※交信のしかたについては、本書21～23ページを参照してください。



■ 第三者が会話を聞くには

1対N(複数)通信機能(※P26)を設定すると、通話エリア内の第三者も、通話内容を聞くことができます。

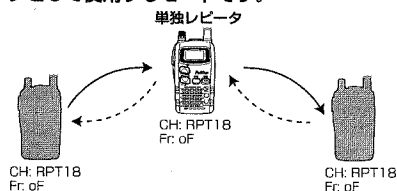
14

15

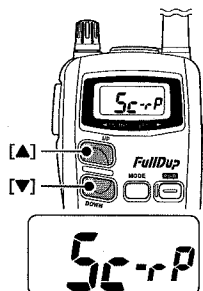
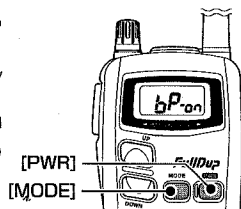
◇ 単独レピータモードの設定

本機を「半複信(セミデュプレックス)単独レピータ使用モード」のレピータとして使用するモードです。

設定例：

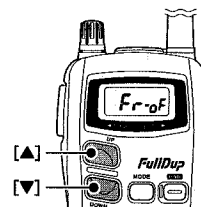


- ① 電源を切ります。
- ② [MODE]スイッチを押しながら[PWR]スイッチを押します。
●電源が入ります。(イニシャルセットモードを表示します。)
- ③ [MODE]スイッチを短く数回押して、Sc-88(動作状態の設定)項目を選択します。
- ④ [▲]/[▼]スイッチを押して、動作状態の設定内容を「Sc-rP」に設定します。
●Sc-rP：レピータモードだけ使用可能
- ⑤ [MODE]スイッチを短く押して、Fr-oF(連結レピータ機能の設定)項目を選択します。

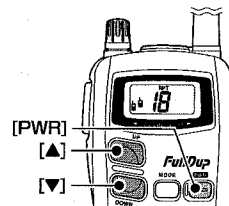


16

- ⑥ [▲]/[▼]スイッチを押して、連結レピータ機能の設定内容を「Fr-oF」に設定します。
●Fr-oF：連結レピータを使用しない



- ⑦ [PWR]スイッチを短く押すと、通話チャンネル表示に戻ります。
●“b”が表示されます。
- ⑧ [▲]/[▼]スイッチを短く押して、隣接している無線機と同じ通話チャンネルをRPT1～RPT27のあいだで設定します。



[ご注意]

- レピータとして動作しているときは、通常の交信はできません。
- レピータは電源を入れた状態で、見通しのよい場所に設置してください。
- 子機がグループ機能を設定している場合は、そのグループ番号に合わせて、レピータにもグループ機能を設定してください。

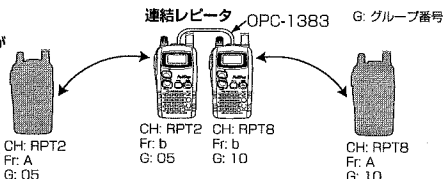
17

◇ 連結レピータモードの設定

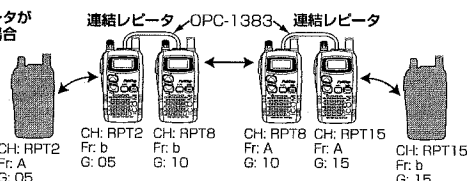
本機を別売品の接続ケーブルOPC-1383で接続して(※P30)、「半複信(セミデュプレックス)連結レピータ使用モード」または「複信(フルデュプレックス)連結レピータ使用モード」のレピータとして使用するモードです。

設定例：

連結レピータが奇数台の場合



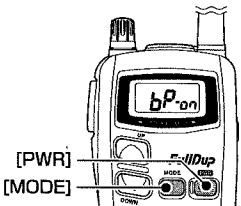
連結レピータが偶数台の場合



[連結レピータ設置に関するご注意]

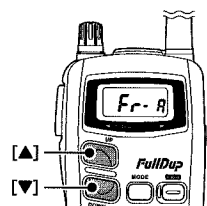
通話が途切れたり、通話音がひずんだりする原因になりますので、連結レピータを設置する際は、子機や隣接しているレピータと、ある程度距離を離して設置してください。

- ① 電源を切ります。
- ② [MODE]スイッチを押しながら[PWR]スイッチを押します。
●電源が入ります。(イニシャルセットモードを表示します。)
- ③ [MODE]スイッチを短く数回押して、Sc-88(動作状態の設定)項目を選択します。

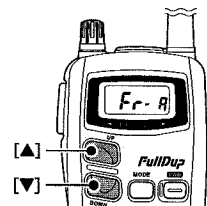
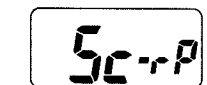


18

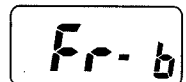
- ④ [▲]/[▼]スイッチを押して、動作状態の設定内容を「Sc-rP」に設定します。
●Sc-rP：レピータモードだけ使用可能



- ⑤ [MODE]スイッチを短く押して、Fr-oF(連結レピータ機能の設定)項目を選択します。
- ⑥ [▲]/[▼]スイッチを押して、レピータ機能の設定内容を「Fr-A」または「Fr-b」に設定します。
●Fr-A：連結レピータ周波数帯Aを使用
●Fr-b：連結レピータ周波数帯bを使用
※ケーブル(OPC-1383)で接続しているレピータ同士は、同じ周波数帯を選択してください。
隣接している無線機およびレピータとは、逆の周波数帯を選択してください。



または



19

- ⑦[PWR]スイッチを短く押すと、通話チャンネル表示に戻ります。

●“”が表示されます。

- ⑧[▲]/[▼]スイッチを短く押して、通話チャンネルをRPT1～RPT27、RPT31～RPT57のあいだで設定します。

※ケーブルで接続しているレピータ同士は、異なる通話チャンネルを設定します。

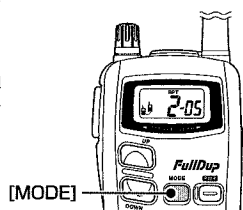
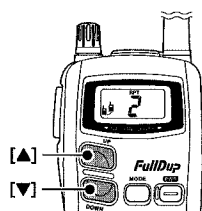
隣接している無線機およびレピータとは、同じ通話チャンネルを設定します。

- ⑨グループ機能を設定します。(P25)

※隣接している無線機およびレピータとは、同じグループ番号を設定します。

ケーブルで接続しているレピータ同士は、グループ番号を考慮する必要はありません。

- ⑩グループ機能設定後、[MODE]スイッチを短く3回押すと、通話チャンネルと設定したグループ番号の表示になります。



[ご注意]

- レピータとして動作しているときは、通常の交信はできません。
- レピータは電源を入れた状態で、見通しのよい場所に設置してください。

20

■ 複信モードでの交信のしかた

複信(フルデュプレックス)モードおよび複信連結レピータ使用モードの設定(P7、13)が完了したら、以下の手順にしたがって交信します。

このモードでは、IC-4088D同士での交信になります。

※その他のモードでの交信については、IC-4088/D 取扱説明書14～19ページをご覧ください。

[ご注意]

ハウリング*を避けるため、別売品のヘッドセットを使用してください。(ヘッドセット側の[PTT]スイッチを押して、通話します。)

この場合、外部マイクに切り替わります。

*ハウリングとは、スピーカーから出た音がマイクに戻り、その音が再び増幅されることで、連続音(ビー)が発生します。

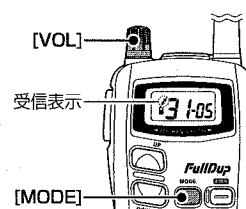
1 [VOL]ツマミを回して、音量を調整する

相手局の音声が大きすぎたり、小さすぎるときは、[VOL]ツマミを回して聞きやすい音量に調整します。

何も音が出ていない状態での調整は、[MODE]スイッチを長く押して「ザー」という雑音を出してから、この音を聞きながら調整します。

●“”が表示されます。

[MODE]スイッチを再度長く押すと雑音が切れます。

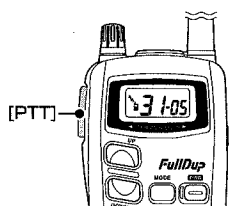


21

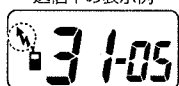
2 [PTT]スイッチを押して、通話相手呼び出す

[PTT]スイッチを短く押すと、「ブルルル」という音が鳴ります。

相手からの応答を待ちます。再度[PTT]スイッチを押すと、途中で呼び出しを終了します。相手から応答があったら、通話状態になります。



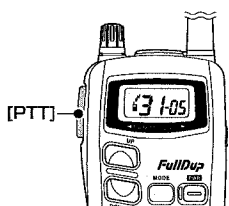
送信中の表示例



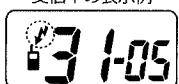
3 呼ばれたときは

「ブルルル」という音が鳴ります。呼び出し音が鳴っているあいだに[PTT]スイッチを押すと、通話状態になります。

通話エリア内にいるグループの中で、最初に[PTT]スイッチが押された無線機と通話できます。



受信中の表示例

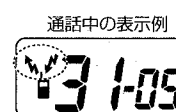


22

4 交信する

送信(話す)と受信(聞く)が同時にできます。

※送信出力の切り替え方については、IC-4088/D 取扱説明書18ページをご覧ください。

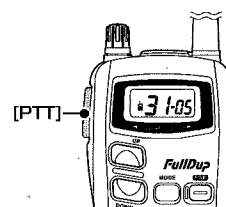


5 通話を終了する

[PTT]スイッチを押すと、「ブツ」という音が鳴り、通話を終了します。

1 対N(複数)通信時、呼ばれた側の無線機が[PTT]スイッチを押して通話を終了した後に、通話エリア内のグループメンバーが[PTT]スイッチを押すと、再度通話が始まります。

最初に呼び出しをした無線機で[PTT]スイッチを押して通話を終了すると、通信は完全に終了します。



23

■セットモードについて

本機のセットモードで設定できる機能は、交信モードによって異なります。
以下の表を参考に、必要な機能を設定してください。
設定が必ず必要なモードがありますので、ご注意ください。

モ ー ド	グループ 機能 (※P25)	秘話 機能* (※P26)	1対N通信 機能 (※P26)	スケルチ レベル (※P27)
単信(シンプレックス)	○	○	×	○
複信(フルデュプレックス)	◎	×	○	○
半複信(セミデュプレックス) 単独レピータ使用	○	○	×	○
半複信(セミデュプレックス) 連結レピータ使用	◎	○	×	○
複信(フルデュプレックス) 連結レピータ使用	◎	×	○	○
単独レピータ	○	×	×	○
連結レピータ	◎	×	×	○

◎：設定が必ず必要、○：設定が可能、×：設定が不可能
*IC-4088/D 取扱説明書25ページをご覧ください。

24

■グループ機能を設定する

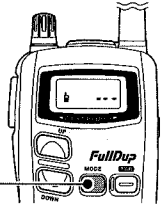
グループ機能を設定すると、同じグループの人とだけ通話ができます。

1 グループ設定表示にする

[MODE]スイッチを押すごとに、
「-」→「Sr-oF」(「1n- 1」)*→チャ
ンネル表示と切り替わります。
●グループ設定表示にします。
「-」

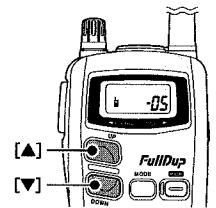
*交信モードにより、表示される項目が
異なります。

[MODE]



2 グループ番号を設定する

[▲]/[▼]スイッチを短く押して、
グループ番号を01～38の中から
選択します。



3 グループ設定表示を終了する

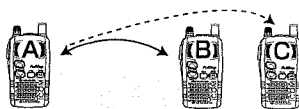
[MODE]スイッチを短く3回押す
と、通話チャンネル表示になりま
す。



25

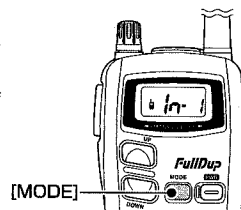
■1対N(複数)通信機能を設定する

1対N通信機能を設定すると、通話エリア内の第三者(C)もAの
話した内容を聞くことができます。



1 1対1/1対N(複数)通信設定表示にする

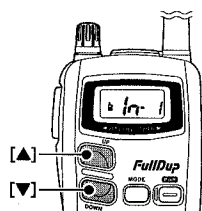
[MODE]スイッチを押すごとに、
「-」→「1n- 1」→「SL-」→チャ
ンネル表示と切り替わります。
●1対1/1対N通信設定表示にし
ます。「1n- 1」



2 1対1/1対N(複数)通信を設定する

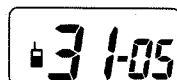
[▲]/[▼]スイッチを短く押して、1
対1/1対N(複数)通信の設定内容を
「1n- 1」、または「1n- n」にし
ます。

- 1n- 1：1対1通信
- 1n- n：1対N(複数)通信



3 1対1/1対N(複数)通信設定表示を終了する

[MODE]スイッチを短く2回押す
と、通話チャンネル表示になりま
す。



26

■スケルチレベルを設定する

スケルチレベルを(-、1～3)から設定します。
通常は、雑音が消える値を設定します。

1 スケルチレベル設定表示にする

[MODE]スイッチを押すごとに、
「-」→「Sr-oF」(「1n- 1」)*→
「SL-」→チャンネル表示と切り替
わります。
●スケルチレベル設定表示にし
ます。「SL-」

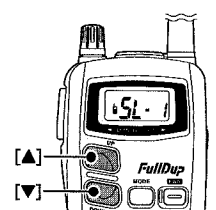
*交信モードにより、表示される項目が
異なります。

[MODE]



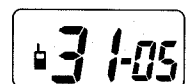
2 スケルチレベルを設定する

[▲]/[▼]スイッチを短く押して、
スケルチレベルを「SL-」、または
「SL- 1」～「SL- 3」に設定します。
●数値が小さいほど弱い信号でも
入感します。



3 スケルチレベル設定表示を終了する

[MODE]スイッチを短く1回押す
と、通話チャンネル表示になりま
す。

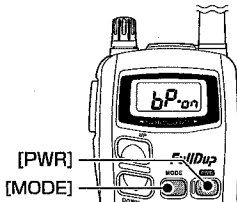


27

イニシャルセットモード 3

イニシャルセットモードでは、初期設定されている運用状態、お好みの使いかたに応じて変更できます。
ここでは、IC-4088Dだけに搭載の機能を説明します。その他の機能については、IC-4088/D取扱説明書37ページを参照してください。

- ① 電源を切ります。
- ② [MODE]スイッチを押しながら [PWR]スイッチを押します。
●電源が入ります。(イニシャルセットモードを表示します。)
- ③ [MODE]スイッチを短く数回押して、設定項目を選択します。
- ④ [▲]/[▼]スイッチを押して、設定内容を選択します。
- ⑤ [PWR]スイッチを短く押すと、元の表示に戻ります。



[MODE]スイッチを押すことに、
[bP-on]→[St-ts]→[Ao-oF]→
[bL-O1]→[Pt-oF]→[Lc-At]→
[Sc-88]→[Fr-oF]→[Hn-O]→
と切り替わります。

◇動作状態の設定

IC-4088Dの動作状態を設定する項目です。

- Sc-88 : 「単信モード」または「半複信単独レピータ使用モード」だけ使用可能
- Sc-AL : 子機として動作する場合の全モード使用可能
- Sc-Fd : 複信(フルデュプレックス)モードだけ使用可能
- Sc-rP : レピータモードだけ使用可能

Sc-88

Sc-AL

Sc-Fd

Sc-rP

28

3 イニシャルセットモード

◇連結レピータ機能の設定

連結レピータ機能を設定する項目です。

- Fr-oF : 連結レピータを使用しない
- Fr-A : 連結レピータ周波数帯Aを使用
- Fr-b : 連結レピータ周波数帯bを使用

Fr-oF

Fr-A

Fr-b

◇ハンガアップタイムの設定

無線機の信号が途切れてから、中継動作を停止するまでの時間を設定する項目です。

- Hn-O : 0/1/3/5(秒)の中から選択します。

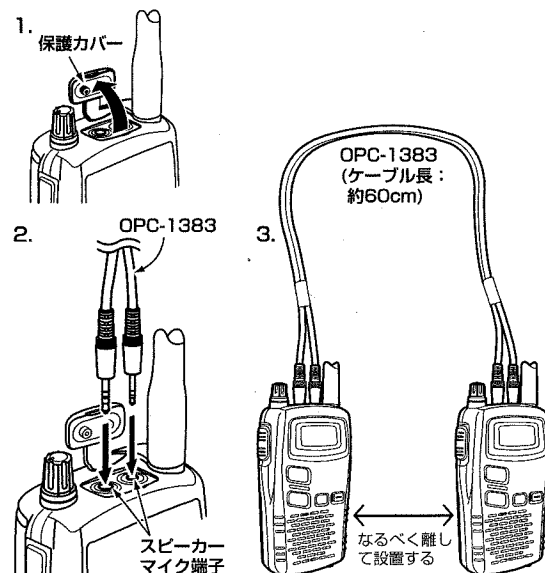
Hn-O

高品質がテーマです。

別売品とその使い方 4

本機を連結レピータとしてお使いいただくために、別売品の接続ケーブルOPC-1383を用意しています。
ここでは、IC-4088Dだけの別売品を説明します。
その他の別売品については、IC-4088/D取扱説明書43～50ページを参照してください。

- ① 下図のように本体上部の保護カバーをはずし、接続ケーブルOPC-1383をスピーカーマイク端子に接続します。
- ② OPC-1383の反対側のプラグを、もう一方のIC-4088Dのスピーカーマイク端子に接続します。



30

A-6395H-1J-③
Printed in Japan
© 2004-2007 Icom Inc.

この印刷物は環境にやさしい再生紙と植物性インクを使用しています。

アイコム株式会社
547-0003 大阪市平野区加美南1-1-32